

町民全体へ対策を急げ

モデル地域を広げ進める



みやち ようこ 議員

問 近年は異常気象が続く、全国各地で豪雨土砂災害が頻繁に発生している。一昨年に続き、昨年7月の西日本豪雨では、幡多地域でも大月町や宿毛市で、死者も出る大きな被害をもたらした。

豪雨・土砂災害は地震・津波災害より数段頻度が高く、住民から身近で見逃せない災害として不安の声が上がっている。

それを反映して、平成30年度の黒潮町婦人大会では、町の情報防災課長、

係長による「黒潮町豪雨、土砂災害の取り組みについて」と題して講演をしてもらった。その中で「あの日、ほんの少し雨雲が黒潮町の方に寄っていたら黒潮町が大きな災害に見舞われても不思議ではなかった」との話を聞き、改めて身近な災害であることを知った。

豪雨・土砂災害は、地域の状況でそれぞれ違う難しさがあるが、町が行っているモデル地域での内容と進行状況はどうか。

答 徳廣 情報防災課長

昨年の7月豪雨では、愛媛県や幡多地域に甚大な被害が発生した。これらの災害はどこでも起こり得ることであり、決して対岸の火事ではないと考えている。

本年度は、馬荷、大方橋川、御坊畑の3地区を一つとして、洪水、土砂災害防災のワークショップを東大の片田教授、京大の矢守教授、京大防災研究所の協力を得て3回開催した。そこでは洪水、土砂災害とはどういうものか、次にはそれぞれの地区の、過去の災害箇所等を図面に書き出し、避難するタイミングや避難する場所等を話し合った。

今後は住民自ら考えた各地区の自主避難計画を取りまとめ、避難訓練の実施も予定している。

問 豪雨、土砂災害について、町民全体の知識として底上げする必要があると思うが、町民大学とか、様々な所で勉強会等の計画はないか。それらを含め今後の対策を伺う。

答 徳廣 情報防災課長

当初予算で712万5千円を計上し、かきせの取組みを今後、土砂災害の恐れのある全ての地区で実施したいと考えている。町内の小学校エリアを基本として10から11のエリアに分け、平成31年度は2段体制で、各2工



かきせ地区でのワークショップ(上と下)



リアとして計4エリアでワークショップを開催する予定。

また、県による土砂災害警戒区域の指定が町内全域で完了予定となっており、自分の住んでいる地区の土砂災害の危険箇所を知ってもらうため、土砂災害警戒区域を記したハザードマップを作成し配布する予定になっている。

町民大学での対応は今の段階では未だハッキリしないが、いずれかのタイミングで、町民の方に土砂災害についての講演等は必要と思う。今後対応していきたい。